

研究センターニュース第74号



特定非営利活動法人  
地域と協同の研究センター

巻頭エッセイ

## 「協同労働の協同組合」の 法制化を市民の力で

企業組合あいち労働協同事業団  
理事長 長谷川勝彦



### 協同労働の協同組合とは

「協同労働の協同組合」法制化をめざす市民会議では、年明けの通常国会に議員連盟による議員立法として「協同労働の協同組合」法制定をめざしています。一般市民には、あまり聞き慣れない言葉で、ほとんど知られていないこの協同組合が、どのようなものかを説明し、まず知っていただきたいと思います。

この協同組合は、第1に働く人、市民による就労創出の促進を目的とする協同組合です。既存の企業による雇用労働に依存するだけでは、就労機会が得られない、あるいは極めて不安定な就労を余儀なくされる人々が、自ら就労機会を創出することを促進します。

第2に、協同労働を通じたディーセントワーク(尊厳ある労働、良い仕事)の実現をめざします。働く者が、同時に出資者・経営者となるしくみ(三位一体)を、法律にもとづいて日本で初めて実現し、自らの労働の質と条件を主体的に高め、ディーセントワークを実現します。

第3に、労働者、市民の社会連帯による仕事おこしと地域づくりに取り組みます。組合の剰余金の一定部分を組合員に分割しない社会連帯基金とし、これを就労創出・仕事おこし能力の開発、地域福祉の向上に活用すると共に、必要な場合には仕事に従事する組合員と共に利用者、賛同する市民が組合員となる複合型(マルチ・ステークホルダー)の「協同労働の協同組合」として、仕事おこしと地域づくりを推進します。

第4に、市民主体、自治体との協働による新しい公共を推進します。公共サービスが民営化される時代に、市民主導による市民のための地域密着型事業の担い手として、もっともふさわしい仕組みです。また地方自治体に、公共サービスに代わりコミュニティに必要なサービスを提供する就労を振興し、これら就労を支援する団体を育成する「コミュニティ就労支援条例」(仮称)の制定を求めます。

### 協同労働の協同組合法制定は時代の要請

現在、このような「協同労働の協同組合」法制化をめざし、協働労働法制化市民会議・同関西市民会議、ワーカーズ・コレクティブ・ネットワークジャパン、労働者福祉中央協議会、日本労働者協同組合連合会、日本労働者協同組合センター事業団、日本高齢者生協連合会、特定非営利活動法人協同総合研究所などが立法運動を推進しています。

法制化を実現するには、それなりの実態が存在し、社会的にも評価されていなければなりません。日本労協連は、全国に300余の地域福祉事業所を開設し、介護福祉、子育て支援、まちおこし、商店街活性化、障害者就労支援、人材育成などに関する事業(ニート支援モデル事業・若者自立塾・子育てサポーター養成)や指定管理者制度などで実績を作っています。ワーカーズ・コレクティブも、女性を中心に全国で数万人の組合員が地域に根ざした仕事を作りだしています。農山漁村の女性たちによる起業活動も全国で盛んに行われています。実態として、雇用関係にない働き方を採用している団体は全国で5千を越えるまでになり、全国で1万以上のNPO法人も、障害者の就労、高齢者介護、子育てほかさまざまな事業を実施しています。

労働法制の規制緩和でワーキングプアー、ネットカフェ、日雇派遣など不安定で劣悪な労働条件で働かされている労働者がどんどん増加している現在の日本で、「地域と生活の人間の再生」「協同労働の協同組合」は、誰もが求める時代になってきたのではないのでしょうか。9月15日に東京でひらかれた「協同労働の協同組合法制定をを求める市民集会」では、千葉県の本郷子知事が記念講演をし「協同労働法は、みなさんにとって使い勝手がいいだけでなく、社会や地域、日本を変えるものになる。そのとき、みなさんは“この法律をつくってよかった”と本当に思うでしょう。生活の一番基本は働くこと。仕事、協同労働を促進する法をつくるなかで、地域での仕事のあり方が優しくなっていく。これは新しい形の、本当の社会変革です」と話されました。名古屋でも12月9日に法制化をめざす集会所が開催されます(中京大学)。地域と協同の研究センターの会員のみなさんも、ぜひご参加ください。

# いろいろな情報・思いを4つのテーマ・パネルに寄せ合って！

2007年度、地域と協同の研究センターでは、東海交流フォーラムでテーマにした4つの領域をもとに、年間を通じて情報交流や調査研究活動をすすめることができるよう「パネル」という場を設け、それぞれで活動を進めています。今回はそれぞれのパネルでの交流内容の一部を紹介させていただきます。

## 食と農（食をささえる地域農業と食育）パネル

食と農のパネルでは、それぞれの参加者が、食と農に関わって取り組んでいること、話題になったことなどの交流を重ねています。12月15日（土）には、第1回の公開パネルの開催も予定しています。

### <食と農、生産者と消費者が一緒になって>

○米とトマトを名古屋市守山区で作っています。名古屋市農業委員会と全国農業会議所の資料を準備しました。日本の北と南では違う現状が資料からは読みとれると思います。消費者と一緒に色々話し合いながら考える場ということで、このパネルに期待しています。

○農協に関わってきましたが、自分自身も農業をやっています。先祖からのものを耕していますが、今の農業は規模が大きく変わってきています。国の政策ですが、日本の農業・農地がこれで守れるのかと疑問もあります。農を守ることが食の問題につながります。それがうまく機能していないのが現状です。消費者も参加して、農地を守る取り組み・意見の形成ができないかと思っています。

○食と農、二つを取り上げたのはいいことです。生産者・消費者両者が連帯することがあってはじめて日本の農は発展し、国民の重要な食を確保できると思います。

○ 『農山漁村の活性化のための定住等及び地域間交流の促進に関する法律(概要)について』という資料を準備しましたが、この法律は、定住を促進し、地域内交流を

めざすものです。交付金341億円というのは非常に大きいのです。農・林・水の縦割りがなく、窓口のワンストップ化を特徴としています。一律の交付金ではなく、強者はますます強くなり、アイデアが出ないところは、ますますもらえなくなります。341億円にのっかれるところはいいが、それ以外のところとの格差は広がるのではないのでしょうか。

○野菜を食べると健康にいいということですが、場合によっては硝酸塩をとることになり、糖尿病を発症し、危険なことになるという論文を最近読みました。促成栽培のハウスものは、吸収した硝酸塩を分解できず葉っぱに残るといふことだそうです。露地ものはいいが、施設ものは危険という話です。世の中、安全なものはないかと思いました。生協の組合員が増えると、野菜の供給も大量になります。ますます、アメリカと同じで家族農家はなくなり、大規模化、株式会社化していくようで、最近気になっています。

### <地域での協同が大事～食と農の多彩な交流を>

パネルの交流の中で岐阜大学地域科学部の有本信昭先生から「大切な事は、多様な視点から、さまざまな領域（生産・流通・加工・消費・循環）の人々の、さまざまな『思い』を交流すること、具体的な地域（狭域、ローカル）での人々の協同を実現すること」とお話しをいただく中で、まず今の食卓はどうなっているか、研究センターで委託し調査をすすめているみなさんに報告いただく場を持つことにしました。



NHK「ライスショック～あなたの主食は誰が作る」  
第2回 危機に立つコメ産地より(07/10/15)

### 第1回食と農パネル公開企画

#### 「いまの食卓は どうなっているのか」

報告 グループ “ごはん いただきま～す”

- 日時 12月15日（土）午後1時～3時予定
- 会場 めいきん生協生活文化会館（本山）  
3階会議室

どなたでも参加いただけます。申込み、問い合わせは  
研究センター事務局(伊藤)まで。

# 地域福祉を支える市民協同パネル

「地域福祉を支える市民協同」のパネルでは、第1回パネル企画を持ち、4人の報告者(介護事業の現場・くらしの相談室、子育て支援、民生委員)から、いろいろなくらしの事例を報告いただいて、参加者で意見交流しました。いくつかの意見を紹介します。

## 〈家族は今〉

生協の事業、くらしの相談室、ふれあい会館の子育て広場や民生委員の活動などがどう位置にあって、何をしているのかについて、自覚し考えなおしてみることが必要ではないか。「家族」が生活の基本的単位だった戦前は、家長制度があり、戦後、それはなくなったが母性を中核としたファミリーという概念が出てくる。1975年は専業主婦率が最も高くなる。家族を中心に生活の再生産をしていくという考え方が基本であった。

核家族化とともにこの機能が低下するので、共同の単位としての家族を支える制度ができてくる。しかし、今日の4人の方の報告を聞いていると、家族が共同の単位だとは受け取れない。家族の構成員ではあっても、自分のやりたいことや暮らし方があって、感情もある。それが一つにまとまらない、そういう意味では新しい家族像が必要になってきているのだと思う。

と同時に新しい家族像にあった支援のあり方が出てこなければいけない。今の支援は古い家族像を前提にしているものだから、ズレができていく。このズレの中でNPOもがいている。生協の支援活動にも戸惑いがでてきている。地域ということを入れなければならず、「寄り合い」を提案して、そこに生協が参加するようなかたちでないとやっていけない。

新しい家族像が出てこない、やっていけないのではないか。しかし現実的には、新しい家族像はどういうものかというところから、女性に自分のやりたいことがあることを前提にして、その上で家族の形式を組み立てていかなければいけないのだが・・・自覚されていないので、ひとつひとつ組み立てていく作業が必要ではないかと思う。



ワークショップでいろいろな話題がひろがります

## 〈家族づくり運動〉

「家族」について提案をした。思い当たる事例があった。新しい「家族像」については同感。積極的な家族像づくりができないので家族づくり運動が必要ではないか。家族は生活防衛機能として発達してきた。人類は家族を基本ユニットとしてきた。家族は大きかったが、小さくなった。小さな家族では防衛機能が弱体化してきた。そこでの議論になっている。「あなたの老後をどうするか」を提起。家族機能、介護力の低下が起きている。高齢者分野、在宅福祉事業、地域でのたすけあいや見守り機能の発達・・・それだけで生活が守れるかどうか、守れないと思う。これからはグループリビングという新しいかたちを提案したい。認知症問題が決定的であり、今後は、考えるしくみと在宅介護事業、地域支援事業、生協運動の中で新しいユニット(家族のカタチ)を模索する運動を展開する必要があるのではないかと。

## 〈様変わりする家族像〉

私にとって今回参加してもっとも大きな収穫と言えたのは、「暮らしの実態」を考えて行く上で不可欠な視点は「様変わりする家族像」だということに気づかせてもらったことです。最近家族の絆が弱くなったということをよく聞きます。そして、それがいろいろな問題の元になっている。もっと家族の絆を強めなければいけないとも言われています。もちろんそれは間違いでは無いでしょう。しかし考えてみれば従来の家族は定住して農耕生活を営むために必要なシステムとして発生し機能してきたものです。ここ数十年で産業構造や人口構成が大きく変化し自己実現を求める女性の声も広がってきました。家族像の様変わりは情が薄くなったとかモラルの低下というようなことではなく、社会の変化に伴ういわば歴史的必然によって進行していることなのかも知れません。

「家族像が変化しているにもかかわらず社会制度は従来の家族像を前提としたままであることが問題」という発言をいただきました。私たちも新しい時代そして新しい家族のあり方を正しく見据えて、今後の活動方針を検討していかなければいけない時期に来ているということ強く印象付けられた研究パネルとなりました。

### 第2回地域福祉を支える市民協同パネル 公開企画

- 日時 11月23日(金)10時30分～14時
  - 会場 めいきん生協生活文化会館(本山)
- どなたでも参加いただけます。申込み、お問い合わせは研究センター事務局(椋木)まで。

## 組合員と職員の接点 (地域担当の仕事を考える交流会) パネル

7月に第1回、9月に第2回の「(生協の)地域担当の仕事を考える交流会」としてパネルをもち進めています。

生協で今、地域担当の職員に求められるものはなんでしょう。地域での加入率が上がると、組合員から求められるものも違ってきます。クレームの対応で一日が終わることもあります。生協ではコンプライアンスとかカスタマ・サービスの教育も、もっと必要でしょう。地域担当は共済やお誘い、利用人数など、いろいろなことを求められるので大変な実務になっているのも事実です。配達コースの考え方も、コースピッチが短いとコミュニケーションをどうやってとるか、予算がかかってくるので整理も必要になってきます。担当者のモチベーションにも関わって、評価も個人評価でなくグループで評価するところもあるという話も聞きます。

パルコープの専務の話で、「パルは人間味のある組織」「業績は求めません」ということばを聞きました。数字は結果であり、数字だけを追いかけていくと結果的に数字が逃げていくことにもなると言われていました。そんなことから、東海の生協の事例を紹介し合い、地域担当の仕事を考えています。

### くめいきん生協の地域担当松岡さんの鬼のパンツ

なぜ鬼のパンツやサンタクロースをしたのか?

「共済加入の話をしようとすると、途端にちりぢりに組合員が散っていく中で共済キャンペーンを広げるため、ワザとところでケガしたふりをして、これがある、と共済のチラシを配りました。共済のお勧めを通じて、組合員に対して、生協と自分の認知度を上げようとしたことが始まりです。クリスマスには、ピザ屋のサンタを参考に、商品配達時にサンタクロースをしました。鬼のパンツは、節分の際に工夫したことです。」

組合員の気持ちは?

「雰囲気やなんかで、やってあげたいという気になる。例えばサンタはたまたまの形。母親の立場で、そんなに頑張っているなら(職員が)努力している姿がみえる。」

この場で気づいたことは?

- ① 生協が組合員さんの思いをうけとめ、社会性を発揮できる組織になるために必要なリーダーやマネジャーのマネジメント手法は?

- やらせることをやめ主体的な行動をつくるマネジメント
- 主体的な仕事から良いことを見つけるマネジメント
- かがやいている個をつなぐマネジメント

リーダーやマネジャーに必要なのは「主体性を引き出し、つなげるマネジメント」

- ② 担当者に必要なのは「しくみに頼らない仕事の仕

方」・・・しくみに縛られるのではなく、たくさんの個性を認める仕事のしかた

- ③ 生協は配達担当者に(本来は配達だけが仕事ではない)何を求めるのかを明確にしなくてはならない。・・・自分のコースの組合員へのお役立ちに徹することでもよい。生協で働くことの意味を明らかにする。
- ④ 多くの職員が「先が見えないことに対する不安」を共通の思いとして持っている。・・・「協同をつくるための何でもありの世界」これを推し進める。その中で良い仕事をするので、組合員との良い関係創りを行う。
- ⑤ 私たちはいったい何のプロなのか?ここを明確にする必要がある。

### ＜担当常任理事の河原洋之さんの感想から＞

第1回は「鬼のパンツ」の担当、松岡さんの側からみた接点、第2回は松岡さんが担当した組合員さんの目から見た接点、2回の交流会で松岡さんという職員とその組合員の接点を両側から掘り下げることができました。松岡さんは、非常にパフォーマンスの上手な、でもとても誠実な職員で、その人となりを組合員さんはよく見て、この人ならと心を開いていきます。組合員さんも職員に対して、自分を合わせようと努力し、つまり職員と組合員はお互い双方向の気持ちのつながりを作っていきます。でも、そんな状況を創り上げる前提条件は、職員のまじめで誠実な組合員への対応や、組合員さんと共感できる心です。決して松岡さんのようにパフォーマンスができなくても、一生懸命組合員のために心を込めて仕事をする職員を組合員さんは心で感じることができます。現場においては「けっしてこんなきれいごとではないんだ」という声もあると思いますが、職員が一人ひとりの組合員さんに心から誠意をもって対応することは、私たちの生協だからこそその基本条件となると思います。一方、組合員さんから出されたOCR用紙の紛失の事例は、この長い信頼関係も一瞬にして崩れる可能性を示しています。(それでも、どならない、クレーム電話もしない組合員の姿が一方にあるのですが)この担当者が、組合員さんの気持ちに寄り添い、行動ができれば、別の結果が出ていたように思います。

### 第3回 地域担当仕事交流会

○日時 11月24日(土)14時～17時

三重の事例で交流します。

このテーマについて興味をお持ちのさまざまな人が積極的にご参加いただけることを期待しています。事務局(森川)までご連絡ください。

## 環境（自然の環 人の輪）パネル

3回の相談の場を持ち、参加者が関わっている環境活動を紹介し合いながら、公開パネルの準備を進めてきました。

みかわ市民生協では

「みかわでは、10年くらい前から六条潟観察会があり、商工会議所が中心になった朝倉川育水フォーラムがある。西三河地域では矢森協とかかわりがある。豊川では、せせらぎウォッチングを6年くらいやっている。環境キャンペーン基金の取り組みもある。みかわ市民生協として、この基金を「穂の国・森づくりの会」に贈呈した。」

めいきん生協では

「8月に『子ども森の健康診断』という企画があった。足助塾にいき、3チームに分かれ、はじめ28本の木があるが、“この範囲なら8本でいい！”という。どの木を切るのか、細くても育ちそうなものを選ぶことや倒れる位置を考えるなどを体験した。環境キャンペーン基金から昨年は矢作川水系森林ボランティア協議会へ贈呈した。」

大学生協では

「阪神大震災時、老朽化したアパートに住む神戸大学の学生が、アパートの倒壊により何人かなくなっている。そのとき、徳島の森林協同組合の人たちが、徳島の木を使って仮設住宅をつくってくれた。そこから大学生協連との交流がはじまり、大学生協の食堂で使う割り箸を、交流

の中から間伐材で使った箸を事業化した。その取組を推進しているのが、『樹恩ネットワーク』である。その割り箸は、障害をもつ人たちが働く作業所で作っている。

八百津の森づくりは、全日空と大学生協東海センターが主催となり、学生・全日空・岐阜県・八百津町・生協で実行委員会をつくって取組んでいる。全日空は『森づくり』については社会貢献の一つとしてやっている。東海で始めて今年が第2回目となる。学生の環境への関心は高い。」

第1回環境公開パネル

みんなの環境活動を交流しようよ

～各生協の環境報告書から～

各生協では、毎年環境報告書を発行しています。まず第1回公開企画では、この環境報告書を紹介し合い、交流します。参加申込みは事務局（佐藤）まで。

- 日時 11月23日（金）13時30分～16時30分
- 会場 伏見ライフプラザ12階第1研修室

### 近況

これまで『環境報告書』を発表してきた企業では、その内容も含んだ『社会的企業責任（CSR）報告書』に移行するところが増えていきます。日本生協連もすでに移行をすすめ（下に2007年報告書目次を掲載）、コープとうきょうでも同報告書が発表されています。

#### 日本生協連合会 『生協の社会的取り組み報告書2007』

私たちのめざすこと :1 ひき肉偽装問題と食の安全・安心の確保/2 第10次全国生協中期計画/3 生協法改正で生協はこう変わります/4 地域の事業者などと連携し、地域の活性化に貢献していきます/5 子育てのしやすい社会をめざして  
 生協は今 :1 生協の姿をご紹介します/2 一人ひとりが力を発揮できる組織へ/3 信頼され健全な組織の生協に  
 生協の主な事業 :1 店舗の事業/2 無店舗の事業/3 コープ商品/4 産直事業とグリーンライフの活動/5 共済事業/6 福祉事業/7 医療事業  
 生協の社会的活動 :1 食品の安全を求めて/2 食育の取り組みがひろがっています/3 消費者組織としての役割を發揮します/4 地域コミュニティーの確かな担い手として/5 暮らしを見つめ支えます/6 平和な世界と子どもたちの幸福への貢献/7 世界の仲間とともに  
 環境に関する生協の取り組み :1 生協の環境保全活動/2 暮らしの見直しやまちづくり活動/3 組合員の活動によるCO2削減/4 マイバッグ運動とレジ袋削減/5 社会的活動/6 リサイクル活動/7 商品の環境配慮/8 生協の温暖化防止自主行動計画/9 店舗・施設の温暖化対策/10 車両の温暖化対策/11 廃棄物削減の取り組み/12 環境マネジメントの取り組み/13 コミュニケーション/14 評価・表彰



# 委託研究「生協における文化活動の可能性をさがす」

～みかわに文化のそよ風を～ 中間報告

前澤このみ（みかわ市民生協組合員）

## 前進座の取組をとおして生まれたものとは

〈委託研究に応募するまで〉

2006年7月26日、劇団前進座「佐倉義民伝」が豊橋市で上演されました。

劇団の創立75周年を、ともに祝いたいと願うみかわ市民生協の組合員有志が実行委員会主催という形でとくみしました。2006年2月から3回の準備会を経て、4月から3ヶ月あまりの活動でした。熱い思いを抱いた実行委員メンバーでしたが、前回の前進座公演から13年の空白があってゼロからのスタートに等しく、収支結果もおもしろくありませんでした。

公演としては失敗でしたが、四つの地区から集まった実行委員は元気でした。このところ文化活動とは、ほとんど縁のうすくなった私たちの生協のなかで、文化活動をテーマに考えたり動いたりし続けようと、9月には「座・ぶんか」というサークルを各地区で立ち上げました。

「どうせ活動するなら同じ思いを持つ職員とも一緒に、なにかしたいねー！」

「私たち以外の組合員は、どんなふう考えているんだろうね？」

「13年前にも生協で文化活動を！といていた組合員がいたよ・・・」

などなど話すうちに、ただ催事を漠然と行ったというより、記録やまとめもできればよいと、ダメもとを承知で委託研究に応募しました。応募した内容は、次のようなものでした。

【目的】1)みかわ市民生協がこれまで文化活動にどう取り組んできたかを振り返って記録に残す。

2)現在、組合員や職員が文化活動をどのように捉えているか調査する。

3)他生協の実際を学ぶ。

4)1～3)の取組に組合員、職員共に有志が参加する。

【方法】1)学習会及び意見交流会の開催。

2)アンケートの実施・集計

3)学習会及び意見交流会の開催(オプションで見学も)

4)日曜夜など仕事を持つ人にも参加しやすい条件をつくる。

## 研究課題の設定にアレコレ迷うことに

〈助成が決まってから〉

2006年12月に委託が決まり、翌2007年1月、前進座の若手女優さんと新年食事会にはじまり、日々に取り組んでみたいことがとびだします。2月には第一弾の職員が出演者のミニコンサートを生協の店の二階で開催しました。それなりに楽しい取組みではありましたが、小さな疑問がうかびました。

「職員と一緒に、ホントにこういうことだろうか？」

委託研究応募時にはなんとかかなるさ、と暢気に計画した内容に自分自身で疑問を感じてブレーキをかける結果となりました。

4月、私が運営にかかわっているNPOの財政難をなんとかしようとして和犬鼓のチャリティ公演をしてもらえることになりました。地域のなかで頭をさげて歩いていると、さまざまな方が力を尽くしてくれて、7月には多くの収益金をいただくことができました。地域に支えられたこの取組みの手ごたえと一年前の前進座公演の手ごたえとがあまりに違うことに気がつきました。

新しく文化活動を展開するより、昨年のお前進座公演の取組みをふりかえってきちんとしたまとめをすべきじゃないだろうか？「赤字になったら私の出資金を穴埋めに出すよ！」といえる実行委員の心意気の裏にある思いを、丁寧に見ることはできないだろうか？迷ったままで暑い暑い8月に突入しました。

## 自分たちがやった文化の取組を、あらためて問い返す機会に

〈応募時と少し違う内容に〉

お盆が過ぎ、アキアカネが無いのはじめてから決めました。やはり、内容を変更しよう！文化の切り口はそのまま残して、昨年の取組みの事実を記録しよう！と。

仕事でもないのに連日チケット普及に動いた日々は、「古い組合員」と称されるわたしたちが仲間づくりをよびかけた、十数年前の組合員活動につづるところがあること。

人が人に出会う機会こそが運動をおすすめる力になると思うことなどを根っこにおいて、1年という熟成期間を経た記録をまとめていきたいと考えます(なさない中間報告になって申し訳ありません)。

# 委託研究「おしゃべりパーティー」(コープぎふ)の報告書から 生協の課題を考える～ 中間報告

熊崎辰広 (コープぎふ職員)

## 1. 問題意識

この2年間ほど、京都の「くらしと協同の研究所」にて、私のテーマとして生協の班組織についての調査分析をすすめてきました(『組合員の組織と活動研究会』、名勤、なら、京都、パルコーコープ、パルシステムの職員、理事が参加。報告書は10月下旬に発行予定)。

ここでは、戦前からの班の歴史をふまえながら、現状の班について、いくつかの生協の配送トラックに同乗しながら、組合員意識アンケートを実施しました。課題としては、班といってもいろいろな班があり、その違いを何かの指標で分類できないか、分類することで見えてくるものはないか、というのが一つ。さらに、予約共同購入としてシステム化された班組織が、このまま個配の比重が高まり、班の意味が失われていく状況で、もっと歴史から学ぶことが求められているのではないかと、というのがもう一つの課題でした。そして、班組織はこれからどうなっていくのか。

結果として、班の分類のための指標と、いくつかの班の意味を問う素材を提供できたのではと思っています(詳しくは報告書をご覧ください)。

そこで、問われているのは、単に欲望の主体としての消費者ではなく、社会性をもった生活者としての組合員意識であり、それにシフトさせること。そのために、生協という本来あるべき教育学習の場としての力を生かすことではないかと思えます。さらに人間関係の大切さ。70年代から80年代にかけて、生協はその力を十分に備えていた。

「おしゃべりパーティー」報告書の内容には、すくなくとも参加した組合員の意識を変える、シフトさせる契機となる力がある、と感じています。しかし、そのことを組合員がどこまで感じているか、すくなくともそれを示唆したり、受け止めてもらえるための作業が必要になります。そこに職員組織の役割があるようです。

## 2. 「班」から「おしゃべりパーティー」へ

これまでの班の歴史をふりかえる時、荷下し場の作業も随分変化してきました。生活班として当初持っていた様々な意味が、利用班として収斂していった過程でもあるようです。同時に、班内の人間関係も変化してきました。多義的な班の性格が、利用するための一義的な班として変化して

きた、とも言えます。

これに対し、「おしゃべりパーティー」の量的なひろがりには、このような班の意味の変化に対し、様々なつながりの契機が秘められているようです。再発見、再確認の要素もあるかも知れません。それを、どこまで事実として把握することができるかが課題です。



## 3. これまでの作業とこれから

現在進行している作業は、それぞれ地域を選び、できるだけ多くの「報告書」を読み、統一の書式によりデータベース化を進めています。それにより、量的な分析を実施する予定です。その結果をベースに、2. で示したような内容を読み取ることができるか、いわば質的な分析を加えます。

今年7月1日、京都の「くらしと協同の研究所」総会記念シンポジウム、第4分科会『生協の“おしゃべりパーティー”徹底分析—その可能性をさぐる』には、全員が参加(教育アドバイザーの毛利さんもコメンテーターとして参加されています)。ここで示されている、いくつかの角度からの分析について、あらためてコープぎふの場にもちかえり、課題を深めたいと思います。(今回のレポートは熊崎個人の責任によるレポートです。)

この委託研究は、熊崎辰広さんを代表に、コープぎふの職員である原勝行さん、国立富夫さん、同組合員の椋木真佐子さんの4名で取り組まれています。

<前号記事の訂正>

第72. 73合併号9頁の仲田伸輝さんの発言で誤りがありましたので、お詫びし訂正させていただきます。

- ・発言12行目 大きく転嫁 → (正) 大きく転換
- ・発言18行目 利用者との契約 → (正) 事業者との契約

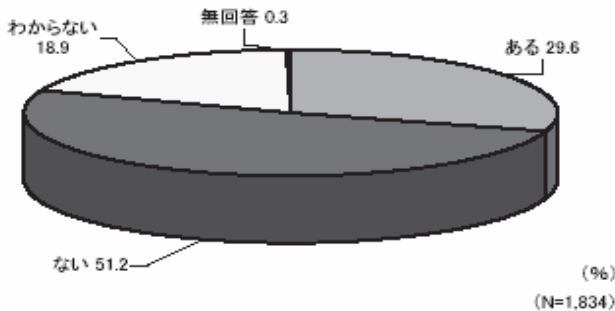
# 町内会・自治会等の地域のつながりに関する調査報告

## 内閣府国民生活局・平成18年国民生活モニター調査

この調査は、「住民相互の連絡、環境の整備、集会施設の維持管理等良好な地域社会の維持及び形成に資する地域的な共同活動を行うことを目的として、町又は字の区域その他市町村内の一定の区域に住所を有する者の地縁に基づいて形成された、いわゆる「町内会・自治会」の活動をはじめ、地域のつながりの現状とそれに対する住民の意識について、様々な角度から把握し、また分析することで今後の施策展開の基礎資料として活用するため」におこなわれた。平成19年1月19日～2月1日に、全国の国民生活モニター 2,000人に対して郵送調査及びインターネット調査で実施し、有効回収数:1,834名(郵送モニター:1,298名、電子モニター:536名)、有効回収率は91.7%(郵送モニター:96.1%、電子モニター:82.5%)となった。回答者の属性は、性別(男性23.2%:女性76.5%)、年齢(20～29歳4.6%、30～39歳19.6%、40～49歳27.3%、50～59歳22.1%、60～69歳18.2%、70歳以上8.0%)であった。

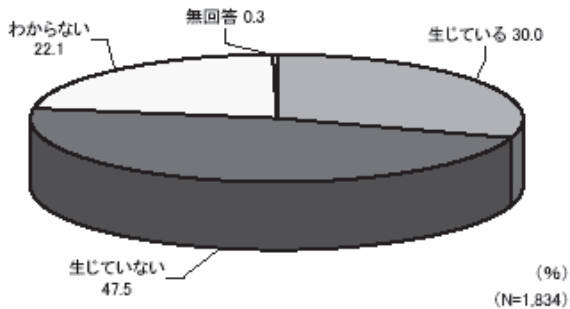
隣近所で協力して行っていることがある人は3割弱、町内会・自治会等との活動とは関係なく、隣近所で協力し合っている活動がある人は、3割弱である。

隣近所との協力事例の有無



最近、地域で困ったことやトラブルが生じている人は3割である。具体的には、地域の安全に懸念を示す回答が多い。

地域のトラブル等の最近の発生状況



### ～困ったことやトラブルの具体的回答例～

- マンション、アパート等に入居している主に1人暮らしの方の入会率が低く、地域としての連帯、特に非常災害発生を考えての防災組織や活動に支障があることを心配している。このために1人暮らし(特に単身者で結婚前の人)の方からも防犯灯(街灯)の維持費やゴミ収集場所の維持美化等のために協力金月100円を徴収することにより加入率を高めている。(70代、男性)
- 最近、子供たちが被害者になるケースが多く報告されています。当地区でも、子供の登下校時におけるパトロール、また地域の高齢者を「みまもる」という主旨から、町内会・小学校PTA・老人会・防犯・交通安全の関係者を含むコミュニティセンターを中心に「安全安心みまもりたい」を立ち上げました。(60代、女性)
- 小学生の一人下校は禁止となり、町区別で集団(登校は従来通り集団)下校となり、近くまで先生が送り、地域の方が迎えるという体制になった。地域の方が結成された「パトロール隊」の関係者は自転車に「パトロール隊」という看板をかごに付けている。(40代、女性)
- 合併により敬老会、盆おどり、運動会等の行事がなくなり、益々地区民の交流がなくなり地域全体の元気がなくなって困っています。婦人消防隊で年末に消火器の使い方等の講習が合併前に行われていましたが、現在はありません。本当に合併は大混乱をひきおこしています。(50代、女性)
- 地域に子供が少なくなり、子供達だけでするイベント(昔の行事)ができなくなっている。昔からの風習を守りたいのですが、人数の減少で、大人の力が入りすぎ、子供自身の活動でなくなりつつある。(60代、女性)

この調査結果の全体は内閣府のホームページをご覧ください。  
<http://www5.cao.go.jp/seikatsu/monitor/chiikitsunagaricyousa070824.pdf> この他に「家族のつながり調査」も実施されています

### INDEX

巻頭エッセー 「協同労働の協同組合」の法制化を市民の力で	
あいち協同労働事業団 長谷川勝彦	1
パネル報告 ①食と農	2
②地域福祉を支える市民協同	3
③組合員と職員の接点	4
④環境	5
委託研究中間報告 生協における文化活動の可能性 前澤	6
「おしゃべりパーティー」報告分析 熊崎	7
情報ファイル 町内会・自治会等の地域のつながり調査	8

2007年10月25日(偶数月25日発行)

定価200円

(税・送料込み。年会費には購読料が含まれています)

発行 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター  
 代表理事 水野隼人

〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-39

TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315

E-mail AEL03416@nifty.com